第66回歴史探訪の会報告「世界遺産登録を目指す古市古墳群と藤井寺の寺社巡り」

実施日　　2019年1月16日
場所　　藤井寺市周辺
案内人　　水越　真次

当日は曇りがちではありましたが、寒さもそれほどではなく、歩きながら史跡を巡るにはちょうど良い天気でした。藤井寺市の観光ボランティアの方のガイドをお願いし、百舌鳥古墳群とともに世界遺産登録を目指す古市古墳群の主要な古墳と藤井寺の歴史ある神社仏閣を巡ることができました。

参加者20名（お試し参加1名含む）

【古市古墳群】

大阪府の東南部、羽曳野市から藤井寺市にかけて巨大な前方後円墳が集中して造られた東西4km、南北４kmのエリアを古市古墳群と呼んでいます。

古市古墳群は墳丘長200mを超える7基の巨大古墳を含む前方後円墳30、方墳53、円墳38、墳形不明９、合計130基の古墳で構成されています。この古墳は4世紀の後半から6世紀中葉の約150年間に形成されました。

3世紀後半以降巨大な大王墳は奈良盆地で築造されてきました。ところが、4世紀後半になると、大王墳の築造地は、古市古墳群と約10ｋｍ西方の堺市百舌鳥古墳群に移動します。この変化については、河内勢力が力を増し、大和の勢力にとって替わって政権の地位についた証拠だとみる説や大王の拠点は変わらず大和に所在しながら、墳墓造りだけを大阪平野に進めたとみる説など、興味深いさまざまな議論をよんでいます。

【コース】

道明寺駅→道明寺天満宮→道明寺→土師ノ里駅前広場（古市古墳群全体の説明）→鍋塚古墳→仲姫命陵古墳→古室山古墳→赤面山古墳・大鳥塚古墳→応神天皇陵古墳→昼食（レストランかごの屋→サンド山古墳→アイセルシェラホール→辛國神社→葛井寺→藤本酒造（流れ解散）

【探訪先別説明】

（１）道明寺天満宮

野見宿禰（のみのすくね・相撲の始祖）の子孫の土師の連（はじのむらじ）が一族の氏神として「土師社」を創建。土師氏は皇族墳墓の殉死に代わる埴輪を考え出し、前方後円墳などの墳墓造営にて大和朝廷に仕えました。土師の末裔である道真公の死後、947年に「道明寺天満宮」を創建し道真公を氏神とし天穂日命（あめのほひのみこと）覚寿尼公（かくじゅにこう）を合祀する。宝物館に道真公の遺品が文化財として、国宝6点、重文2点等を展示。本殿の北側には80種　800本の梅林やその他三ツ塚古墳で発掘された「修羅」のレプリカが境内西北隅に展示されています。

（道明寺）

創建は聖徳太子が尼寺創建を発願し、土師連八嶋が自宅を喜捨して建立した一族の氏寺「土師寺（はじでら）」とされ、四天王寺伽藍が営まれていました。菅原道真公の没後947年に菅公のおば・覚寿尼が所有していました十一面観世音菩薩（国宝）を本尊として祀らせ「道明寺」と改名した。元の寺院は洪水被害を受けたため、天満宮敷地内に移築され、明治の神仏分離令により現在のれました。道明寺糒（ほしいい）が有名。

（鍋塚古墳）
　現状は一辺50m前後の方墳ですが、周辺の調査成果により一辺63mに復元することができます。二段に築かれ、高さ7mを測ります。埋葬施設は不明ですが、墳丘斜面には葺石（ふきいし）が施され形象埴輪が採集されています。仲姫命陵（仲津山）古墳の堤に食い込む位置にあり、堤と同時期もしくは先行する時期に築造されたと推定されます。出土した埴輪は4世紀後半を示しています。これらのことから鍋塚古墳は仲姫命古墳の陪冢（ばいちょう）と考えられます。

（仲姫命陵古墳：なかつひめ）
　墳丘長290m、前方部幅193m、3段築成。我が国9番目の大きさを誇る前方後円墳で、一重の狭く、深い空堀が廻ります。縊れ部の両側に方壇状の造出しが付属し、整備な墳形を残している。なお、堤は45m余を計測し、非常に幅が広い事を特徴とします。未発掘である為、内部構造の詳細は不明ですが、前方部全面側堤部に径30cmの円筒埴輪列が確認され、これから推察し、築造時期として4世紀後半が挙げられます。

（古室山古墳）
　墳丘長150m、前方部幅100m、3段築成の前方後円墳で、前方部の高さ9.3m　後円部の高さ15.3mと明らかに古相を呈し、一重の環濠が取り巻きます。内部施設や副葬品については不明ですが、円筒埴輪列が確認されており形象埴輪も採集されています。4世紀後半の築造と推定される。墳丘は登坂可能で、市民に親しまれています。

（赤面山古墳）
　一辺15mの方墳で、採取された円筒埴輪は古室山や大鳥塚の物と相前後して形成されたことが窺えます。当墳は西名阪道路の建設時に保護されました。5世紀初頭の築造と推定。

（大鳥塚古墳）
　墳丘長110m、前方部幅50mを計測する前方後円墳で、後円部3段・前方部2段に築成され、後円部(12.3m)が前方部(6.1m)に比してかなり高く、形状からは5世紀初頭の様相を呈する。家・衣蓋(きぬがさ)・盾形などの形象埴輪以外にも、鏡・鉄剣・矛・鉄鏃(てつぞく)などが出土しました。

（応神天皇陵古墳）
　古市古墳群最大の大きさ。墳丘長425m、後円部の径250m、前方部の幅300m、高さ36mをを測し、総全長650mを超える巨大古墳で仁徳天皇陵に次いで世界第2位の地位を占めます。3段

に築成されるとともに二重濠が廻り、斜面は葺石が施されています。埴輪には黒斑がなく5世紀前半の築造と推定されます。また、前方部西側の崩れは1510年の河内大地震によるものです。

（サンド山古墳）
　応神天皇陵へ号陪塚（ばいちょう）。現状は長軸長30mほどの不整形な双円墳状を呈していますが、本来の墳形とは考えられません。5世紀後半の築造と推定されます。

（アイセルシュラホール）
　藤井寺市生涯学習センターの愛称。船形埴輪をモチーフにした建物の2階の歴史展示ゾーンには、旧石器から古代藤井寺の歴史を学べるほか、津堂城山古墳から出土した水鳥形埴輪（重要文化財）や西墓山古墳の鉄器埋納施設などが見学できます。
　また、平成16年に中国西安で発見された遣唐留学生・井真成（いのまさなり）の墓誌のレプリカが展示されていて遣唐使についても学ぶことができます。

（辛國神社（からくに））
　5世紀、物部神社として創建されましたが、6世紀末、物部氏が蘇我氏に敗れた為、その報復を憂い欽明天皇時代に韓国連（からくにのむらじ）を賜姓していた塩児（物部氏の子孫）の姓を取って改名したと言われています。室町時代、河内国主・畠山基国が社領200石を寄進し、現在地に春日神社を造営した時、本神社を合祀しました。本殿のご祭神は、物部祖神「饒速日命（にぎはやひのみこと）」、春日大社の「天児屋根命（あめのこやねのみこと）」、長野神社の「素戔嗚尊（すさのおのみこと）」３神です。

（葛井寺（ふじいでら））
（紫雲山金剛琳寺）8世紀中頃、百済王の系譜を引く辰孫王（王仁）を祖先とする白猪氏（後の葛井氏）の氏寺として創建されました。国宝「千手千眼十一面観音菩薩」をご本尊とし、西国三十三か所観音霊場第5番札所として人々に厚く信仰されてきました。現在の西門は、豊臣秀頼寄進のもので、重要文化財に指定されいます。

【最後に】
　今回巡った古市古墳群は、同じく世界遺産登録を目指している百舌鳥古墳群に比べ、余り知られておらず、どちらかといえばマイナーなイメージがあります。よって現在は訪れる方々は比較的少人数で廻っておられるようですが、世界遺産登録となれば、観光客が多く押し寄せることが予想されます。
　その時、現在のインフラで間に合うのか、例えば、大型バスの駐車場などの整備が必要になってくるのではないかと思われます。
　また、古墳は地上から見ると、丘のようにしか見えず全体像が確認できません。よって、今後全が見えるような展望台などが整備されればさらに観光に寄与できるのではないかと思われます。

以上